

PRIME
TOKYO

2022年11月9日

各位

会社名 株式会社ヴィア・ホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 楠元 健一郎
 (コード7918、東証プライム市場)
 問い合わせ先 執行役員コーポレート企画室長 田口 雅規
 電話番号 03-5155-6801

2023年3月期第2四半期業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想に関するお知らせ

2022年5月13日に公表した2023年3月期第2四半期累計期間の業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績との差異
 (2022年4月1日～2022年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,400	220	170	90	2.62
今回実績(B)	7,006	△563	△589	△537	△15.56
増減額(B-A)	606	△783	△759	△627	
増減率(%)	9.5	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2022年3月期第2四半期)	4,036	△687	△435	1,045	32.01

2. 2023年3月期 通期連結業績予想
 (2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,100	550	430	250	7.28
今回修正予想(B)	15,480	△450	△530	△750	△21.66
増減額(B-A)	△620	△1,000	△960	△1,000	
増減率(%)	△3.9	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	10,258	△1,123	△827	543	16.25

3. 差異発生及び修正の理由

(1) 2023年3月期 第2四半期（累計）

売上高については、新型コロナウイルスの影響は緩やかな回復を予想しておりましたが、都市部（主に「紅とん」「一丁」業態が該当）を中心に予想を上回る早さでの回復で推移したものの、残念ながら今夏の新型コロナウイルス感染第7波の影響で一時的な客数と売上高の減少に見舞われ、上期累計では、期初予想より606百万円の増額にとどまりました。一方で新型コロナウイルスの感染拡大に端を発した世界的な物流混乱に加え、ロシアによるウクライナ侵攻や円安の影響により、仕入れ原価や水光熱費などの諸費用が当初予想を大きく上回りました。さらに、全国的に働き手不足が継続しており、店舗人員確保のための求人費や時給単価についても当初予想を大きく上回りました。これらの影響により、売上高は予想を上回るも、営業利益は783百万円の減額、経常利益では759百万円の減額、親会社株主に帰属する四半期純利益は627百万円の減額、と増収減益という結果となりました。

(2) 2023年3月期 通期予想（修正）

売上高については、期初予定していた出店の計画を、コロナ等の市場への影響を勘案して慎重に抑制していることと、新型コロナウイルス第8波の影響を十分に勘案し、620百万円の下方修正といたしました。利益面においては、上半期および下期スタート時の仕入れ原価高騰を踏まえたメニューミックス施策により、売上減少分の粗利益をカバーすることと、店舗人員が充足しつつあることから人件費率の減少を見込み、営業利益では1,000百万円の下方修正といたしました。これに伴い、経常利益は960百万円の減額、親会社株主に帰属する当期純利益は1,000百万円減額の下方修正といたしました。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上